

浜松新球場で閉会中審査

「照明なし」整備案提示へ

県議会建設委

県が浜松市西区の遠州灘海浜公園篠原地区に整備する新野球場を巡り、県議会建設委員会は11月初旬に閉会中審査を実施する方向で最終調整に入った。県は照明設備がないスタジアムの整備案を新たに提示する見通しで、年内の1案絞り込みに向けて議論が進展するかどうかが焦点。27日までの関係者への取材で分かった。

県は県議会9月定例会建設委員会で、整備予定地近くで産卵するアカウミガメに関する環境影響調査の結果を公表し、「模擬照明による影響は顕著には確認できなかった」と説明した。一方、参考人招致した専門家からは「データが不足している」「照明が影響を及ぼすのは間違いない」などの指摘が相次ぎ、野球場の構造や規模に関する議論は深まらなかった。

閉会中審査ではウミガメの調査結果を整理した上で、照明設備がないスタジアムを含む整備案について協議する見通し。委員は「ア

カウミガメへの影響を考慮する必要がある」との認識でおおむね一致しており、球場全体を覆うドーム構造と照明がないスタジアムが有力になるとみられる。

県は①外野スタンドがコンクリート構造のスタジアム②外野スタンドが盛り土構造のスタジアム③ドーム構造の3パターンを想定し、それぞれ2万2千人規模(草薙球場相当)と1万3千人規模(愛鷹球場相当)にした六つの案を公表済み。年内に1案に絞り込み、パブリックコメント(意見公募)を実施した上で年度内に基本計画を策定する方

針を示している。

(政治部・森田憲吾)

早期実現へ4者
期成同盟会発足

浜松市と市議会、浜松商

工会議所、市自治会連合会は27日、県による新野球場建設を後押しするため、新



野球場建設促進期成同盟会」を発足した。4者一体となった「オール浜松」の体制で、プロ野球が開催できる2万2千人規模、幅広いイベントが開催可能な全天候型ドームタイプの新野球場の早期実現を目指す。

個別に行ってきた県への要望活動を地域ぐるみで行い、働き掛けを強めることが狙い。県が同市西区の遠州灘海浜公園篠原地区に建設する新野球場は「浜松地域の長年の悲願」とし、ドームタイプにすることで「交流人口の増加や経済波及効果が期待できる。地域振興の起爆剤になる」と訴えている。

市役所で行われた発足式には鈴木康友市長、太田康隆議長、斉藤豊会頭、広野篤男会長が出席した。鈴木市長は「粘り強く県に要望を続け、市の思いを伝えていきたい」と意気込みを語り、年内にも県に対して改めて要望を行う意向を示した。新野球場建設促進期成同盟会を発足した(左から)広野篤男会長、太田康隆議長、鈴木康友市長、斉藤豊会頭

11月27日午後、浜松市役所